

科目名 (英)	医学英語 (Medical English)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部 ・Aクラス	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	医学の専門英語の基礎を学習し、リハビリテーションに関する英語論文を読むための基礎能力を養うことを目的とする。 また、英語論文に関するプレゼンテーションを実施し、文献抄読会の一連のプロセスを体験する。						
到達目標	①文献検索を実施できる。 ②医学論文の読み方の基礎を理解できる。 ③リハビリテーションに関する英語論文を読み、得られた内容をプレゼンテーションできる。						
評価方法 (基準)	・プレゼンテーション:70% ・レポート課題:30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーションと基礎学習	講義の予習をする。
2		講義	理学療法に必要な、英語の情報収集サイトを活 論文サイトを利用して英語論文を検索するこ ができる。	講義の復習をする。
3		講義	・講義：医学論文の読み方①	講義の復習をする。
4		講義	・ワーク：英語論文検索 ・講義：医学論文の読み方②	講義の復習をする。
5		講義	英語論文を読み、おおまかな内容を理解する。	講義の復習をする。
6		講義	英語論文の要約を作成する。	講義の復習をする。
7		講義	英語論文の要約を作成する。	講義の復習をする。
8		講義・演習	ワーク①：英語論文を和訳し、内容を理解でき る。	プレゼンテーション資料の作成をする。
9		講義・演習	ワーク②：英語論文を和訳し、内容を理解でき る。	プレゼンテーション資料の作成をする。
10		講義・演習	ワーク③：英語論文を和訳し、内容を理解でき る。	プレゼンテーション資料の作成をする。
11		講義・演習	ワーク④：英語論文を和訳し、内容を理解でき る。	プレゼンテーション資料の作成をする。
12		講義・演習	【プレゼンテーション①】 和訳した英語論文について発表を行い、議論を	プレゼンテーション資料の作成をする。
13		講義・演習	【プレゼンテーション②】 和訳した英語論文について発表を行い、議論を	プレゼンテーション資料の作成をする。
14		講義・演習	【プレゼンテーション③】 和訳した英語論文について発表を行い、議論を	プレゼンテーション資料の作成をする。
		本試験		
15		講義・演習	英語でのプレゼンテーションを体験する。	講義全体の復習をする。
準備学習 時間外学習			講義中に出される課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】			リハに役立つ論文の読み方・とらえ方 (羊土社) PT・OT学生の文章力を育てる！レポートの書き方 (金芳堂)	

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小川 恵子
学科・コース	理学療法科・I部 Aクラス	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜・2限
教員の略歴	医師。現在、みちのく記念病院に勤務している。						
授業の学習内容	①内科学の知識は理学療法を行う上で必要不可欠なものである。この講義では総論として、主要な症候の病態生理について理解し、各論として、各疾患特有の疫学、病態生理、検査、治療についての知識を習得する。 ② 内科学を理解するためには、解剖学、生理学、病理学等と関連が深い。 ③学生には予習復習を行い、各器官の基本的な解剖・生理と各疾患の症状や病態について説明できるようになることを願う。						
到達目標	患者の全身状態を把握するために内科的基礎的知識を身につけ、説明できる						
評価方法と基準	定期試験：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	内科学の概念と診断の進め方を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
2		講義	臨床検査とデータの解釈に関して理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
3		講義	循環器系の解剖・生理と循環器疾患の主要な徴候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
4		講義	高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心不全の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
5		講義	肺の解剖・生理と呼吸器疾患の主な症候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
6		講義	呼吸器疾患の検査所見(画像検査、生理学的検査、喀痰検査、等)を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
7		講義	感染性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜんそく、拘束性肺疾患、肺腫瘍の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
8		講義	消化管の解剖・生理について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
9		講義	消化管疾患の徴候とその病態生理、各検査法を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
10		講義	口腔疾患、食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
11		講義	肝臓、胆のう・胆管、膵臓の解剖・生理を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
12		講義	急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変の病態・症状について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
13		講義	腹膜の解剖・生理、急性・慢性腹膜炎について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
14		講義	前期に行った講義の要点を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
		試験	筆記	
15		講義	解説：前期試験の正答を答えられる	その日のうちに講義の復習を行う
準備学習 時間外学習		不明個所の調べもの学習		
【使用教科書・教材・参考書】 標準運理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)				

科目名 (英)	救急医学 (Emergency Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	浅沼達二
	理学療法科 I 部・Aクラス	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期 不定期
教員の略歴	医師。現在、浅沼整形外科の院長を務める。						
授業の学習内容	各臓器の疾患を理解し、鑑別診断を出来るようになる 緊急の症状が出現した時、脳か、循環器科か、呼吸器科か、低血糖症状か 鑑別できるようになる						
到達目標	医師不在の施設に勤務する人が増えているため、 緊急時のバイタルサインを正確に把握し、症状を正確に救急隊へ連絡し、搬送依頼を確実に出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基礎的な専門用語を理解できる	講義の復習
2		講義	脳卒中、脳動脈を理解できる Japan comma scaleをとる事ができる	講義の復習
3		講義	脱臼、骨折(上下肢、体幹)について理解できる	講義の復習
4		講義	心電図の取り方と心電図の各波を理解できる	講義の復習
5		講義	各種不整脈(特に緊急を要する不整脈)を 理解できる	講義の復習
6		講義	心電図用語を理解できる WPW症候群の波形は何を疑うかを説明できる	講義の復習
7		講義	心筋梗塞の病態・症状と緊急時に 何をするかを理解できる	講義の復習
8		講義	肺区域、排痰処理とそれに基づく 排痰体位を理解できる	講義の復習
9		講義	スパイログラム、フローボリュームの意味を 理解し、検査結果を読むことが出来る	講義の復習
10		講義	悪性腫瘍(特に転移性悪性腫瘍)の 概要を理解できる	講義の復習
11		講義	糖尿病・低血糖の病態、症状を理解できる	講義の復習
12		講義	意識障害・呼吸困難の概要を理解し、 救急搬送の手順を実践できる	講義の復習
13		講義	高血圧・低血圧・てんかんの概要 を理解し、各対処が行える	講義の復習
14		講義	頭痛・発熱、深部静脈血栓症の概要 を理解し、その対処ができる	講義の復習
		試験	筆記試験	
15		講義	試験解説を通し、試験問題の解答を理解できる	講義の復習
準備学習 時間外学習		不明点の調べもの学習		
【使用教科書・教材・参考書】 講義プリント、リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第2版				

科目名 (英)	義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部 ・ Aクラス	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	通年 水・木・金 曜日・時限 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法士として、義肢装具の作成時に必要な視点を中心に、適応・チェックアウトを理解し、体験する。義肢装具療法で出来ること、できないことを学び、理学療法(評価、運動療法)につながる理解を深める。また、現在の最新の動向を確認し、経験する。						
到達目標	義肢装具の作成過程の体験・見学を通し、義肢装具学で学んだ知識と技術の理解を深めることをめざす。 さらに、各疾患の詳細適応について学ぶ。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	下肢のアライメント評価の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
2		講義	足部のアーチ構造を理解し説明できる	指定教科書該当ページの予読
3		講義	足部のアライメントを評価できる	指定教科書該当ページの予読
4		講義	足部の簡易のアーチサポートを作成できる	指定教科書該当ページの予読
5		講義	切断の評価と運動療法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
6		講義	義足のソケット、継手、適切な位置関係の説明ができる	指定教科書該当ページの予読
7		講義	義足のチェックアウトと修正方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
8		講義	装具のチェックアウトを説明できる	指定教科書該当ページの予読
9		講義	短下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読
10		講義	長下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読
11		講義	車椅子の構造を説明できる	指定教科書該当ページの予読
12		講義	日常生活補助具の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
13		講義	日常生活補助具の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14		講義・演習	装具採型を説明できる① (P O)	指定教科書該当ページの予読
15		講義・演習	装具採型を説明できる② (P O)	指定教科書該当ページの予読
16		講義・演習	最新の装具の動向を知る① (P O)	指定教科書該当ページの予読
17		講義・演習	最新の装具の動向を知る② (P O)	指定教科書該当ページの予読
18		講義・演習	最新の義足の動向を知る① (P O)	指定教科書該当ページの予読
19		講義・演習	最新の義足の動向を知る② (P O)	指定教科書該当ページの予読
20		講義・演習	理学療法士に必要な義肢装具の知識① (P O)	指定教科書該当ページの予読
21		講義・演習	理学療法士に必要な義肢装具の知識② (P O)	指定教科書該当ページの予読
22		講義・演習	P Oの装具策を見学する①	指定教科書該当ページの予読
		試験	筆記試験	
23		講義・演習	P Oの装具策を見学する②	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用	

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅲ 呼吸器疾患 (Physiotherapy technique theory Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部 ・Aクラス	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 月・火1,2限
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	急性期～在宅を問わず、安全な理学療法を行うためにはフィジカルアセスメントが重要となる。この授業を通じて、呼吸循環動態を理解し、フィジカルアセスメントやリスク管理の知識を深める事を目的とする。						
到達目標	①呼吸循環器疾患の基礎知識を理解する。 ②呼吸循環器疾患患者の病態から、正確に身体状況を把握する事が出来る。 ③呼吸循環器疾患患者に対する評価と運動療法の内容を理解する事が出来る。						
評価方法 (基準)	定期テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	循環器に関する基礎知識	講義の予習・復習を行う事
2		講義	心電図	講義の予習・復習を行う事
3		講義	虚血性心疾患とは	講義の予習・復習を行う事
4		講義	虚血性心疾患への理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
5		講義	大血管疾患・末梢血管疾患とは	講義の予習・復習を行う事
6		講義	大血管疾患・末梢血管疾患への理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
7		講義	心不全とは	講義の予習・復習を行う事
8		講義	心不全に対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
9		講義	運動耐容能とは	講義の予習・復習を行う事
10		講義	運動耐容能評価とは	講義の予習・復習を行う事
11		講義	呼吸器に関する基礎知識	講義の予習・復習を行う事
12		講義	酸素デバイスとは	講義の予習・復習を行う事
13		講義	COPDとは	講義の予習・復習を行う事
14		講義	COPDに対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
		本試験		
15		講義	試験解説	講義の予習・復習を行う事
準備学習 時間外学習			授業範囲の予習・復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 内部障害理学療法学 文光堂 病気がみえる 呼吸器 第3版 メディックメディア	

科目名 (英)		理学療法技術論V (難病・スポーツ障害) (Intractable Disease,Sports Disease)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茂呂 行哲
学科・コース		理学療法科 Ⅰ部・Aクラス		授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜・3-4限
教員の略歴		理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。							
授業の学習内容		難病・スポーツ障害に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。							
到達目標		「難病」の定義が言える。「指定難病」の要件が言える。難病患者の就労について説明できる。具体的な難病の病態と治療法を説明できる。 アスレチックリハビリテーションの一例を体験することができる。 臨床における難病・スポーツ障害に対するイメージを身につけることができる。							
評価方法と基準		筆記試験：難病50%、スポーツ障害50%							
授業計画・内容									
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)					
1		講義・演習	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。	講義内容の復習を行う					
2		講義・演習	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。	講義内容の復習を行う					
3		講義・演習	膝関節の靭帯損傷(膝関節の解剖・運動、受傷メカニズム)を理解する。	講義内容の復習を行う					
4		講義・演習	膝関節の靭帯損傷(運動連鎖、動作分析)を理解する。	講義内容の復習を行う					
5		講義・演習	上肢のスポーツ障害(投球障害肩等)について理解する。	講義内容の復習を行う					
6		講義・演習	上肢のスポーツ障害(運動連鎖、動作分析)について理解する。	講義内容の復習を行う					
7		講義・演習	アスレチックトレーニングを体験する。	講義内容の復習を行う					
8		講義・演習	アスレチックトレーニングを体験する。	講義内容の復習を行う					
9		講義・演習	「難病」・「指定難病」の定義が言える。	講義内容の復習を行う					
10		講義・演習	「難病の患者に対する医療等に関する法律」について理解する。	講義内容の復習を行う					
11		講義・演習	指定難病総論(神経難病を中心に)	講義内容の復習を行う					
12		講義・演習	神経難病各論(Parkinson病)	講義内容の復習を行う					
13		講義・演習	神経難病各論(脊髄小脳変性症)	講義内容の復習を行う					
14		講義・演習	神経難病各論(筋萎縮性側索硬化症)	講義内容の復習を行う					
		試験	筆記試験						
15		講義・演習	試験の解説を行う。学習内容の総復習を行う。	講義内容の復習を行う					
準備学習 時間外学習		各学習内容の予習・復習を行う							
【使用教科書・教材・参考書】		資料随時配布、運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略							

科目名 (英)		理学療法演習Ⅱ (Practice in PTⅠ)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	塚野智史
学科・コース		理学療法科 Ⅰ部・Aクラス		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
教員の略歴		理学療法士(認定)・学校教育(初・高)・短期・回復期・通所ケアセンター・フロン、訪問ケアセンター・フロンを卒業							
学習内容		理学療法評価学にて得た知識を用い、臨床現場を意識した流れ、方法論、アセスメント、動作分析を実施できる。							
到達目標		①各理学療法評価を学生同士で実施できる ②患者に合わせて、必要な評価項目を列挙し、その理由を述べるができる ③患者情報と評価結果を動作分析と関連づけ、統合と解釈を行うことができる							
評価方法 (基準)		1)実技試験:50% 2)筆記試験:50%							
授業計画・内容									
回数	日程	授業形態	学習内容					準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
2		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
3		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
4		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
5		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
6		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
7		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
8		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
9		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
10		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
11		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
12		演習	ROM-Tを学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
13		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
14		演習	脳血管疾患患者への理学療法評価を学生同士で実施できる						評価の練習を行うこと
15		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
16		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
17		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
18		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
19		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
20		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
21		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、動作観察から健常人との違いを列挙でき						評価の練習を行うこと
22		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、評価項目を列挙することができる						評価の練習を行うこと
23		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、評価項目を列挙することができる						評価の練習を行うこと
24		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、評価項目を列挙することができる						評価の練習を行うこと
25		演習	脳血管疾患患者のケーススタディにて、評価項目を列挙することができる						評価の練習を行うこと
26		演習	検査結果と患者情報から統合と解釈を文章で表現することができる						評価の練習を行うこと
27		演習	検査結果と患者情報から統合と解釈を文章で表現することができる						評価の練習を行うこと
28		演習	検査結果と患者情報から統合と解釈を文章で表現することができる						評価の練習を行うこと
29		演習	検査結果と患者情報から統合と解釈を文章で表現することができる						評価の練習を行うこと
30		演習	検査結果と患者情報から統合と解釈を文章で表現することができる						評価の練習を行うこと
準備学習 時間外学習		獲得した技術の反復練習							
【使用教科書・教材・参考書】		適宜資料を配布							

科目名 (英)	理学療法演習Ⅱ (Practice in PT Ⅱ)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茂呂 行哲
学科・コース	理学療法科 Ⅰ部・Aクラス		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	通年 火・木曜
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。							
授業の学習内容	2学年までで学習してきた評価学を、より臨床に即したかたちで展開することができるようになるために必要な科目となる。 各評価方法や各病態により現れる徴候 (sign) に対して、理学療法のコアとなる臨床推論の展開の一例を学ぶ。							
到達目標	各検査結果、徴候に対し解釈 (アセスメント) を行うことができる。 各疾患の疾患特異性を考慮したうえで適切な評価を選択し、正確に実施することができる。 対象者の問題点を抽出し、根拠のある治療プログラムを考案することができる。							
評価方法及び基準	筆記試験 (50点)、実技試験 (50点)							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容			準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		演習	オリエンテーション 理学療法評価学復習 (評価とは)			<復習>理学療法評価とは何か		
2		演習	ROM-T (ハンドリング、ポジショニング)			<復習>ROM-Tの基本軸、移動軸、参考可動域および代償運動		
3		演習	ROM-T (自動運動と他動運動の違い)			<復習>自動運動と他動運動の違い		
4		演習	ROM-T (自動運動と他動運動の違い)			<復習>各関節の解剖学、運動学		
5		演習	MMT (測定部位の確認、病態との関係)			<復習>各運動の主動作筋の起始・停止、神経支配		
6		演習	MMT (測定部位の確認、病態との関係)			<復習>筋力低下の生じる疾患		
7		演習	MMT (代償運動、各種徴候)			<復習>各筋の代償パターン		
8		演習	MMT (代償運動、各種徴候)			<復習>筋力低下が原因となり生じる異常動作		
9		演習	姿勢観察 (面の理解、ランドマークの確認)			<復習>各面におけるランドマーク		
10		演習	姿勢観察 (面の理解、ランドマークの確認)			<復習>ランドマークと重心線の関係		
11		演習	姿勢観察 (姿勢と筋活動:姿勢タイプ)			<復習>ケンダル「筋:機能とテスト」		
12		演習	姿勢観察 (姿勢と筋活動:姿勢タイプ)			<復習>ケンダル「筋:機能とテスト」		
13		演習	姿勢観察 (観察の視点、動作の予測)			<復習>支持基底面と重心		
14		演習	姿勢観察 (観察の視点、動作の予測)			<復習>支持基底面と重心		
15		演習	動作観察 (姿勢制御、平衡機能)			<復習>安定性とは		
16		演習	動作観察 (姿勢制御、平衡機能)			<復習>バランス反応		
17		演習	動作観察 (徴候からの予測)			<復習>各徴候の意味		
18		演習	動作観察 (徴候からの予測)			<復習>各徴候の意味		
19		演習	動作観察 (基本動作、起居動作の確認)			<復習>基本動作・起居動作とは		
20		演習	動作観察 (基本動作、起居動作の確認)			<復習>基本動作・起居動作のバイオメカニクス		
21		演習	臨床推論 (検査結果に対する解釈)			<復習>評価における統合と解釈とは		
22		演習	臨床推論 (検査結果に対する解釈)			<復習>評価における統合と解釈とは		
23		演習	臨床推論 (現象に対する解釈)			<復習>評価における統合と解釈とは		
24		演習	臨床推論 (現象に対する解釈)			<復習>評価における統合と解釈とは		
25		演習	臨床推論 (ケーススタディ:整形外科疾患)			<復習>整形外科疾患全般		
26		演習	臨床推論 (ケーススタディ:整形外科疾患)			<復習>整形外科疾患全般		
27		演習	臨床推論 (ケーススタディ:脳血管疾患)			<復習>脳血管障害全般		
28		演習	臨床推論 (ケーススタディ:脳血管疾患)			<復習>脳血管障害全般		
29		演習	臨床推論 (ケーススタディ:ADL障害)			<復習>ADL障害全般		
30		演習	臨床推論 (ケーススタディ:ADL障害)			<復習>ADL障害全般		
準備学習 時間外学習		獲得した技術の反復練習						
【使用教科書・教材・参考書】		適宜資料を配布						

科目名 (英)	臨床評価実習 (Evaluation of Clinical Practice)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科 ・ Aクラス	授業 形態	実習	総時間 (単位)	240 (6)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーションを経験。現在は訪問リハビリテーションにも従事している。						
授業の学習内容	臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。						
到達目標	症例を通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。						
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	実習オリエンテーション 「臨床評価実習」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
2		演習	実習前OSCE I 「臨床評価実習」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
3-148		実習	臨床現場での実習 期間 (週5日実習、週休2日)	日々の復習
149		演習	実習報告	レポート作成
150		演習	実習後OSCE I 「臨床評価実習」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
準備学習 時間外学習			学外 臨床評価実習に向けた自己学習、実技練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				
これまでの教科書全般を使用				

科目名 (英)	臨床実習 I (Clinical Practice I)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	茂呂行哲
学科・コース	理学療法科 ・ Bクラス	授業 形態	講義・演習 実習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	集中
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
授業の学習内容	<p>今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。</p> <p>① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習 I」では情報収集から治療の立案までを経験する。</p>						
到達目標	<p>臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。</p> <p>① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。</p>						
評価方法と基準	<p>【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40%</p> <p>【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	実習オリエンテーション 「臨床実習 I」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
2		演習	実習前OSCE II 「臨床実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
3-173		実習	臨床現場での実習 期間 (週5日実習、週休2日)	日々の復習
174		演習	実習報告	レポート作成
175		演習	実習後OSCE II 「臨床実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
準備学習 時間外学習		学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】				
これまでの教科書全般を使用				

科目名 (英)	国家試験演習Ⅲ (The prac of Qualifying Exam Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	塚野智史
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	理学療法科Ⅰ部・Aクラス						
教員の略歴	理学療法士(認定・学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法士に必要な基礎知識を整理しつつ問題演習を行う。この授業を通して国家試験(共通分野)に関する知識を習得する。						
到達目標	国家試験共通問題の知識を習得し、各問題の解説を行うことができる。						
評価方法 (基準)	中間試験(筆記)50%、本試験(筆記)50% 各試験は国試模試とし、そのうち共通問題100点分を評定対象とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる	講義の復習
2		講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる	講義の復習
3		講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる	講義の復習
4		講義・演習	関節に関する国家試験解法ができる	講義の復習
5		講義・演習	関節に関する国家試験解法ができる	講義の復習
6		講義・演習	靭帯に関する国家試験解法ができる	講義の復習
7		講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる	講義の復習
8		講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる	講義の復習
9		講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる	講義の復習
10		講義・演習	上肢の運動学に関する国家試験解法ができる	講義の復習
11		講義・演習	下肢の運動学に関する国家試験解法ができる	講義の復習
12		講義・演習	顔面と体幹に関する国家試験解法ができる	講義の復習
13		講義・演習	姿勢・歩行に関する国家試験解法ができる	講義の復習
14		講義・演習	バイオメカニクス・運動学習に関する国家試験解法ができる	講義の復習
15		講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる	講義の復習
16		講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる	講義の復習
		確認試験		
17		講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる	講義の復習
18		講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる	講義の復習
19		講義・演習	感覚と受容器に関する国家試験解法ができる	講義の復習
20		講義・演習	循環器系に関する国家試験解法ができる	講義の復習
21		講義・演習	呼吸器系に関する国家試験解法ができる	講義の復習
22		講義・演習	消化と吸収に関する国家試験解法ができる	講義の復習
23		講義・演習	泌尿器と生殖器に関する国家試験解法ができる	講義の復習
24		講義・演習	代謝に関する国家試験解法ができる	講義の復習
25		講義・演習	ホルモンに関する国家試験解法ができる	講義の復習
26		講義・演習	発生と組織に関する国家試験解法ができる	講義の復習
27		講義・演習	共通問題全範囲で30%の正答率を出せる	講義の復習
28		講義・演習	共通問題全範囲で40%の正答率を出せる	講義の復習
		本試験		
29		講義・演習	本試験の問題を解説することができる	講義の復習
30		講義・演習	本試験の問題を解説することができる	講義の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】		クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2023共通・専門 2023年度版理学療法士作業療法士過去問題集共通・専門 問題10年分		